

平成27年度第8回  
袋井市行政改革推進委員会 会議録

日 時：平成27年6月23日（火） 18：30 ～ 20：30

会 場：袋井市役所 5階 第1委員会室

出席者：日詰一幸会長、大場規之副会長、秋山憲治委員、玉井まゆみ委員、寺田陽子委員、西尾新太郎委員（6人）

<会議次第>

○ 報告事項

- (1) 行政改革推進委員会等における意見の整理について
- (2) 第7回袋井市行政改革推進委員会会議録について

○ 議 題

- (1) 第2次行政改革実施計画の取組について
- (2) 「人材育成、組織力向上」について

<会議の概要>

市役所各課から提示された新たな取組項目を基本に、6つの大胆な改革（案）を提示し、平成28年度以降の5年間の行政改革を計画的に実施するための方策を示す「第2次袋井市行政改革実施計画」の取組について議論した。今回、6つの取組のうち、「取組2 地域拠点施設（公民館）の利便性向上」、「取組3 PR躍進シティプロモーション事業」、「取組5 働き方を変えるオフィス改革」の3つの取組に絞り、議論した。

個別の行政課題の対応策を検討するため、今期の委員会においては、「人材育成・組織力向上」に係る改革・改善について検討している。検討の基礎資料とするために平成26年度に実施した「人・組織の見える化調査」の結果概要を説明した。

（委員意見）

1 取組2 地域拠点施設（公民館）の利便性向上

・市全体の組織の見直しをすると、市内の活性化、情報伝達がよりうまくいく。様々な組織の見直しという観点からすると、コミュニティセンターは1つのきっかけになりうる。

2 取組3 PR躍進シティプロモーション事業

・1つでもコンテンツをみつけ、それが全国でも注目を浴びるような物なのかどうなのか、もし磨けば、光るのであれば磨くことに力をいれることが大事になってくる。

3 取組5 働き方を変えるオフィス改革

・何をすべきかというところ業務の「スクラップ&ビルド」である。

## <会議の概要>

|     |   |
|-----|---|
| 会長  | <p><b>2 会長あいさつ</b></p> <p>前は、実施計画6つの柱があったが、そのうち3つを意見交換させていただいた。1つ目が「民間開放によるサービスの向上」、2つ目が「徹底したアセットマネジメントの推進」、3つ目が「完全電子自治体の取組」ということで限られた時間であったが、大変有意義な意見交換ができたと思う。今日は残りの3つの柱について意見交換いただくことになるが、袋井市の行財政改革に大変、重要な項目であるので、様々な見地からご意見いただければと思う。どうぞよろしくお願ひしたい。</p>   |
| 副市長 | <p>事業のPRをさせてもらいたい。ご案内のとおり、病院の統合ということで2年前に袋井病院と掛川の公立病院が合併して中東遠総合医療センターになった。2年たつて順調に病院の経営が進んでいる。お手元に袋井市総合健康センターのリーフレットがあるが、今年の連休明けにオープンをした。保健、医療、介護、福祉そうしたものを切れ目なく市民の皆さんにサービスを提供していく、いわゆる地域包括ケアシステムである。旧市民病院の建物をリニューアルして使っているということで、行政は健康づくり、介護の部門が移り、社会福祉協議会も移っていただいた。それから、隣接して聖隷袋井市民病院もある。何か健康について知りたいという市民は、ここにきて、ワンストップでいろいろ相談が受けられて、しかも処方示されてケアに繋がっていく。</p> <p>いち早く地域包括ケアシステムに取り組んで実現化している。しかも、旧病院の建物の耐久性はまだある。行革の観点からもこういった成果として、評価していいのではないかと思っている。しかし、実は市民の皆さんに認知されていない。例えば、家庭で父親、母親が認知症になったようだけれどもどうしようかというとき、ここに来てもらえればワンストップで解決できるとなっているわけだが、そうした情報を出さないといけないと思う。情報発信が今日の論点であるので事例をご紹介して、挨拶にかえさせていただく。よろしくご審議お願ひしたい。</p> <p><b>4 報告事項</b></p> <p>(1) 行政改革推進委員会等における意見の整理について</p> |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>(2) <b>第7回袋井市行政改革推進委員会会議録について</b></p> <p>資料1、2ということで前回の検討の様子の説明があったが、何かご質問がありましたらお願いしたい。議事録については、6/30までに確認をしていただき修正箇所等ありましたら電話、メールなどで連絡をお願いしたい。その後、事務局でHP公開への作業を進めていく。</p> <p><b>5 議題</b></p> <p>(1) <b>第2次行政改革実施計画の取組について</b></p> <p><b>【取組2】 地域拠点施設（公民館）の利便性向上</b></p> <p>これから大胆な改革ということで自主事業の活性化が掲げられており、コミュニティビジネスなどの事業展開などが記載してある。この場合、事業の中には、ボランティア活動やある程度有償なものが混在する。その場合、提供するサービスの水準や事業の持続性の課題がある。ボランティアは無償であると、長続きしないことがある。</p> <p>ボランティア活動の部分とビジネスの色合いを持った部分の調整や両立をしていくという考え方もある。考えを参考までにお聞きしたい。</p> <p>事務局 NPO、ボランティアなどは収入を得るということで、コミュニティビジネスやサービスがこれから考えられる。コミュニティセンター化に向けて、庁内で話しをしているが具体的な棲み分けについては、議論はしていない。</p> <p>委員 ボランティアは、熱意はあるが長続きしないとすると、結局、総合的に地域の生活に不確定な部分ができる。生活は安定が前提になってくるため、懸念される。掛かった費用は有償という形を中心に考えるといいと思う。</p> <p>事務局 無償のボランティアでやる場合、事業の継続性が補償できない。例えば、環境活動をやっているグループがあり、住民の皆さんもそういった活動に期待をされるが、費用的な部分が生まれてこないとお願ひする側、活動する側も積極的な活動ができないという問題もあることは事実だと思う。そういったこともあり、活動の拠点を公</p> |
|--|--|

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>民館において、そこで一定の収入を得て対価となるサービスを提供するというのがこれから求められる。特に高齢化になると手をもてあます高齢者もでてくるので、そういった方々が第一線で働くイメージではなく、少し自分が活動するだけの費用をもらって、そのかわり、しっかりしたサービスを提供するといったイメージでこれからどういうふうにやっていくかを検討している。</p>   |
| 事務局 | <p>ボランティアが無償だと、内容にもよるが継続性が保たれることもあるが、それが難しい場合は一定程度有償していくことになるが、財源の話が重要になる。今、検討の俎上にのせているのは何らかの形で原資、基金をつくり、そうした果実や基金を補充していければ、それを使って有償のボランティアの対価としてやっていけるといことである。どういったものを有償、無償にするという制度設定はこれから検討するが、ファンドが必要であると検討している。</p>   |
| 委員  | <p>友達が磐田市に住んでいるが、幼稚園の送迎や用事がある時に、子どもを見てもらえる市の登録制の有償ボランティアがあり、登録する人もたくさんいると聞いている。袋井市でもやってほしい。</p>   |
| 事務局 | <p>継続していくときにコミュニティビジネス化ということで、受益者から一定の対価をいただいて、サービスを提供する方も法人化を見通し、資金を貯めていく。自らも資本を蓄積していくとなると次のサービスにもつながっていく。サービス提供する側の有償化と受ける側の対価のバランスがあると思う。色々なケースでそういったものをトライしながら制度を充実させていく方向だと思う。</p>   |
| 委員  | <p>コミュニティセンター化は、行政側が進めたい事業ということか。例えば、住民側が自発的にこういうことをしたい、今の公民館にこういう問題があるからこういうところで改善していきたい、だからコミュニティセンター化というプロセスがある。また、行政側、例えば、国がこういった制度があるから、これを浸透させていくことや、行政の運営上の必要性から組織が受け皿として必要であるというアプローチとでは、随分変わってくると思う。地域から提案されたものであれば、無償でも頑張りましょうとなるが、そうではないとなると報酬の問題もでてくる。権限、業務をどこま</p> |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>で市から移管されるのか、そういったところまで話が及んでくると<br/>思うが、差し障りのない範囲で伺いたい。</p>  |
| 事務局 | <p>公民館のコミュニティセンター化については、2～3年前から俎<br/>上にあがってきている。袋井市の場合、公民館の組織が13あるが<br/>、1つの自治会の塊がその1つの公民館に割り当てられるところと<br/>、いくつかの連合会が割り当てられるところと2つ種類がある。1<br/>公民館1連合会の場合は、実際に公民館の社会教育分野だけではなく<br/>様々な自治会活動、コミュニティを形成する活動もされているこ<br/>とも事実である。ただ、複数のところが集まっているところは1ヶ<br/>所に様々な課題を抱えた連合会が集まるため、1つの公民館で何か<br/>やろうというのは難しい状況にあるというのも確かである。他にも<br/>様々な課題はあるが、どちらかという1公民館1連合会では、そ<br/>のまま公民館をコミュニティセンター化して、そこを拠点にコミュ<br/>ニティ的活動をしたいという流れにある。一方、1つの公民館で複<br/>数の連合会のところはもう少し状況をみて行政主導ではなく時間<br/>をかけてじっくりやっていくという考えがある。先ほど2年3年と<br/>言ったのは、地域の意見を尊重しながら、進めて行きたいという思<br/>いで今日に至っているという状況である。</p> |
| 委員  | <p>自治連合会との絡みというのは非常に大きな様々な関係がでて<br/>くると思う。もしそうだとすると、連合会あたりに1つの公民館を<br/>作っていくほうが組織を作るよりもよっぽど大事であり、地域から<br/>より望まれていることではないかと思う。両方ミックスさせようと<br/>するため、矛盾が生じると思う。</p>   |
| 事務局 | <p>活動の単位だと思うが、今、袋井市は24の連合会があり、それが<br/>13の公民館になっている。公民館は元々、社会教育の関係の施設の<br/>ため、小学校単位で公民館は立地してきた。袋井は小学校が12あり<br/>、公民館の方が1つ多いが、12小学校区で13公民館である。だいた<br/>い一緒の数になっている。地域の様々な課題について、公民館を拠<br/>点にコミュニティセンター化して解決していくとなると、一番大事<br/>なのはコミュニティになってくる。袋井市は、ローカルなので、小<br/>学校の区域が1つのまとまりになっている。それをどこかで割って<br/>施設を増やしていくのは難しいということで、基本13公民館になっ</p>   |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>ている。規模は3,000人ぐらいの公民館の区域もありますし、13,000人ぐらいの区域もある。歴史的な地域や開発された地域など色々な地域がある。規模の大小に問わず、今の公民館の単位で当分いいのではないかというのが概ねの議会、地域の皆さんとのコンセンサスである。</p> <p>コミュニティセンター化は地域から自発的、内発的にでてきたことを行政が後押ししていくというのはすごくいいパターンだと思う。コミュニティセンター化して色々な事を自らでつくるということでやっていこうと行政から数年前に提案したが、議会から押しつけや地域の皆さんが認識を持って歩調が揃うまでは駄目ではないかなど、いろいろ意見をいただきました。拙速にそういったことをすると必ず様々な軋轢が起こるため、ここ数年は、特定の地域でトライしてきた。三川公民館では高齢者の足ということで地域協働バスをボランティアで運営したり、浅羽東では高齢者の居場所づくりをボランティアで公民館の一角で行ったり、行政と地域の話し合いで良好な関係で動いている。成功事例を積み上げていって、横展開をしていくというイメージでやり、制度設計していけたらと思っている。</p> |
| 委員  | <p>山名地区というのは宇刈、山梨があり宇刈には公民館がなく、宇刈いきいきセンターをつくっていただいた。山梨地区の公民館の移動時には、自治連合会、公民館、地域において、色々な思いが錯綜し、様々な問題が出た。</p> <p>その根本は、自治会連合会に起因しているところが非常に大きく、自治会連合会単位で組織を考えていくというのが非常に大事ではないかという気がする。もし、コミュニティセンター化をし、単位としては公民館単位でいくなれば、そうしたことを踏まえた上で住民の自発的な形で支援していただいた方がいいと思う。</p>   |
| 事務局 | <p>活動の単位は検討課題として預からせてもらいたいと思う。</p>  |
| 委員  | <p>諸井で自治会長をしている。連合会単位や自治会を主体にするというのもよくわかる。私どもの地域では役員に就任するのは1年か半年になる。順番で、1年経ったら、役員が変わっていくため、市</p>  |

|     |  |
|-----|--|
|     | <p>でいうスタイルをとっていきたいのであれば、自治会だけでのとらえ方では難しい。2年3年の中で、地域ご意見を聞くとか、考え方を理解してもらおう、理解者を増やしていこうというのが前提であると、自治会だけでは難しい。浅羽地区で過去の歴史の中でお祭りが地区ごとにあるわけだが、お祭り等の関係で地域での決まり事があることを市にも理解いただきたい。地域の独自の情報としても市で収集できるような形をとっていただくとありがたい。</p>   |
| 事務局 | <p>コミュニティ活動の理想とする単位、コミュニティ活動が行える一番望ましい人口の規模があるが、袋井市の場合、コミュニティを支えているのは自治会やそれを束ねる連合会になる。地縁組織が支えている。昔からの風土やしがらみがあり、1つ1つ行政でこうであるということはなかなか言えないところがある。委員から提案があったように、市もただ情報を開示するというだけではなく、整理してわかりやすく示す必要があると思う。地域の皆さんからの情報を提供していただき、受け取り、お互い相互理解をしながら、取り組む必要がある。</p>   |
| 副会長 | <p>今回の行革のテーマが人・組織で、要望ということ、庁内の組織のみならず市全体の組織の見直しをしてもらえると市内の活性化、情報伝達がよりうまくいき、その辺りまで踏み込んでもらえるといいのではという話をさせてもらった。青少年健全育成、女性部、老人会など色々な組織の見直しまでやられてはどうかと提案させてもらった。そういった観点からすると、コミュニティセンターは1つのきっかけになりうるという感じがする。歴史は繰り返すというのを感じていて、50年60年というスパンで、町になり、市になり、市町が合併しという形で拡大してきているわけである。数十年前は、村単位できるものは村単位でやりなさいよというのがこのコミュニティセンターの流れでもあるのかなという感覚がする。歴史的な背景も含めてコミュニティセンターが市全体の組織の改革にも生きるようにしなければいけない。コミュニティセンターができたことで、今までの三重組織、四重組織になり、わかりにくくなってはいけない。シンプルでわかりやすくなり、一元管理され、コミュニティセンターにいけば地域のことは解決することが目指される必要がある。</p> |

|     |   |
|-----|---|
| 委員  | <p>今井地区でいうと、家の近くに公会堂があるが、公会堂と公民館は違うのか。</p>  |
| 事務局 | <p>袋井の場合、1自治会でほぼ、1つの公会堂は持っている。公民館になると小学校単位で1つある。建物も大きく、常駐する職員もいるという違いもある。</p>   |
| 会長  | <p>自治会ごとの歴史背景があり、いくつかのところでコミュニティセンター化やまちづくり協議会の設置に関して手伝いをしているが、非常に難しい問題である。それぞれやってきたことが新しい物に切り替わるという難しさがある。拙速に進めると相当、苦労すると思うため、ある程度制度設計していく段階で、住民がどういうふうにしたいか、自主性をくみ取っていかないと、色々なトラブルが起こることになる。時間がかかると思うが、住民の皆さんとやりとりした上で制度設計していくということが一番いいだろうと思う。手続き、プロセスは目標年度があると思うが、それにとらわれてしまうと、上から下ろされたという形になってしまい、いつまでたっても、しこりが残り、一番まずいパターンになってしまう。うまくやっていただきたい。</p> <p><b>【取組3】PR躍進シティプロモーション事業</b></p> |
| 会長  | <p>取組3のシティプロモーションについて質問、補足説明はあるか。皆さんから意見をいただきたい。</p>  |
| 委員  | <p>題名だが、シティプロモーションというカタカナは袋井市知名度向上事業に変わるか。</p> <p>外国人アンバサダー育成ということですが、アンバサダーは大使ということだが、外国人大使の育成と言った方がわかりやすいのではないか。袋井市を歩いている人にアンバサダーといってもわかるのか。アストモはどういう意味か。</p>   |
| 事務局 | <p>シティプロモーションに限っていうと、どこの自治体もこういった表現を使ってPRしているのが事実である。日本語に置き換えれば知名度向上推進事業ということになる。イベント情報を発信してくれるアストモは会社の名前である。日本語を使って表現するよう</p>  |



|  |  |
|--|--|
|  | <p>心掛けていく。</p> <p>委員 今度、メロンサミットが行われる。参加する自治体は静岡県が多い。袋井市だけではなく、近隣で共通する内容を使えることがある。袋井単独ではなく、近隣の市町と共同で特徴を打ち出すという手もあるかもしれない。その中で微妙な違いも重要である。そういう観点も一つあるという感じがする。</p> <p>活用されていないものとして、市や町の何十年史がある。旧袋井市や旧浅羽町の何十年史という本の中に特色あるものが隠されているかもしれない。自然から産業、文化まで幅広いが、時間の流れが書いてあり、地元で詳しい専門家が力を入れて書いている。あの中にある特色を、袋井市に住んでいない人に評価してもらおうと何か新しい発見があるのではないかと思う。実証研究の調査の時に現地に行く前に、市町に関する統計資料や何十年史を手に入れて、下調べして、実際、歩き、その後に調査をする。すでにある資料を袋井市に移り住んだ方とかの新鮮な目で評価すると以外な特色がでてくるのではないかと思う。袋井市に初めてきた時、花祭りに白い像をお坊さんたちが引いているのを初めてみた。新鮮に思った。</p> <p>副会長 シティプロモーションが大胆な改革の1つに上がっているが、プロモーションはコンテンツとプロモーションが重要で、中身に併せたプロモーションが必要である。大胆な改革としてあげられているということは袋井市にいいものはあるけれども、活かされておらず、プロモーションが悪いからだというふうに考えているのか。こんなにいいものがあるのに、十分プロモーションされておらず世の中に出ていないということか。そのアンバランスさを感じるか。</p> <p>事務局 1つは袋井の情報発信力の乏しさの例をいうと、先ほど眠った貴重な地域資源をもっと外からみると磨けば、光る情報もあるという話が委員からあった。偉人の検証という意味で、鳥居信平さん、南極越冬隊長の鳥居鉄也さんのお父さんが、台湾について地下ダムを建設した。70～80年経つがそのダムが現役でも活躍しているというような偉業を成し遂げた方である。我々も4～5年前まで知らなかった。それを教えてくれたのが東京にいる方で、その方が本を書き、そこから袋井にそういう人がいるとわかった。その情報が徐々に</p> |
|--|--|

|            |   |
|------------|---|
|            | <p>広まっていき、今、台湾との交流は産業交流にまで発展しようとしている。そういったところでプロモーション的な考え方が働かないといけないと感じる。袋井市の中には潜在的に眠っているものもあり、もっと作り上げていく物もあると思うため、情報発信力を磨く中で伸ばしていきたいなという思いがある。</p>   |
| <p>副会長</p> | <p>我々、経営者に対して経営的な視点で行革という取組をしてくださいという課題をいただいている。例えば、経営的な視点で見ると、自分の会社に袋井市内でしか売れないものを浜松市でPRしてもしょうがない、全国に対してPRしてもしょうがないという逆の考え方がある。まず、袋井市で売れるものをきちんと売れるように身の程を知って、身の丈に合わせたPRというものが経営的には当たり前であり、無駄なコストはかけられない。それよりも、今、売ろうとしている商品がきちんと袋井市で売れるのか評価されるものなのかどうなのか中身をきちんとし、袋井で売れたら浜松で売り、次は全国に進出するというように、内容に合わせてプロモーション、コマーシャルが必要だと思う。逆に言うとコンテンツがないのに不必要にコマーシャル、PRに力を入れるとそれだけの訴求力はないと思う。</p> <p>これから大胆な改革として力を入れていこうとしているのであれば、それなりのコンテンツ、これを売りにしていきたいというのがなければ、プロモーションだけやっても、絶対世の中から受け入れられないと思う。そのため、そのバランスを考えて本当に全国的に魅力あるものなのか、どうなのかそれにふさわしい手法を考えてコストをかけていくというのが何より大事である。知名度全国600番台ということで、これが情けないというのであれば、もちろんプロモーションに力を入れていくのも必要である。1つでも2つでもコンテンツをみつけ、それが全国でも注目を浴びるような物なのか、もし磨けば光るのであれば、磨くことに力をいれるのが大事になるのではないかと思う。プロモーションの前に、本来のコンテンツを磨くことにもっと力をいれることが大事ではないかと思う。</p> |
| <p>委員</p>  | <p>袋井商工会議所で地酒を造るということで、地酒の事業やらせてもらった。川村驥山先生の名前をいただいた。市が文化財を保管しているのであれば、歴史を大事にし、市の広報でPRするなど、先</p>  |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>生がお書きになったものを市民へ普及してほしいと思う。地域の中で、著名な先生がいて、実際、袋井の中からお生まれになり、努力をされ、評価されて、世のため人のために働いたということは、袋井の魅力であると思う。歴史に対して、幼稚園や小学校でも機会をとらえて、学校の勉強だけでなく、そのようなことも指導していただければと思う。</p> |
| 事務局 | <p>袋井市の偉人ということで総合学習の中で勉強をするようになっていく。</p>  |
| 委員  | <p>市で積極的にPRしていただくことで、地域の強みとなり、歴史を市民が確認でき、それが人づくりにつながっていく。幼いころから教育の中で地域の歴史等を理解させることが大事だと思う。</p>  |
| 会長  | <p>コンテンツが重要で、市の中にある誇りとなるべき財産がたくさんあると思う。生まれが長野で、驥山館がありますが、袋井にきて、袋井の出身だと知った。他の地域の方が、川村驥山を継承されているのではないかと思う。</p>  |
| 委員  | <p>コンテンツがなければコマーシャルしてもしようがないと思う。コンテンツのアイデアだが、偉人、風景など、ジャンルわけをして袋井市民から地域資源のアイデアを募ることがある。小学生、中学生、世代別からもらうことやジャンル分けしたハガキを皆に配って袋井市へ送ってもらうとかすれば、色々な人からアイデアが集まると思う。</p>      |
| 会長  | <p>市民レベルでそういった取り組みをしたら、市の財産を見つけた方が自分で何か発信するということをやりたいかもしれない。市がプロモーションするというより、むしろ個人的にブログを使って、発信するようになっていくため、逆に袋井の市民1人1人がどんどん発信していけば、十分プロモーションが成り立つかもしれない。</p>          |
| 委員  | <p>まずは袋井市民に対してというのがいいと思う。私も30年以上袋井に住んでいるが委員が先程言ったことは知らなかった。袋井市民に対して発信すると袋井の良さが再発見される。</p>   |

|     |  |
|-----|--|
| 会長  | <p>外から来た方が見て素晴らしいなと感じることは結構あるのでは。まちづくりはよそ者、若物、ばか者というが、やはり外から来た方が見ることで何か新しいもののブレイクがあるのではと思う。そういうような取り組みをこれからやっていけばいいと思う。いずれにしてもコンテンツをしっかりと磨いていくことが大事である。</p>  |
|     | <p><b>【取組5】 働き方を変えるオフィス改革</b></p>  |
| 会長  | <p>取組5 働き方を変えるオフィス改革について何か補足はあるか。</p>  |
| 委員  | <p>課題のなかに行政事務の肥大化、煩雑化とあるが、これは何か原因があると思うが、どういう仕組みで、何故そうなのか。</p>   |
| 事務局 | <p>基礎自治体の市町村の立場から言うと、一番大きいのは地方分権一括法が施行されて、国、県の権限が移譲されるという名の下に国、県で行われていた事務が市町村に大分、降りてきている。典型的なもので言うと袋井市の場合、パスポート受付から交付をしているが、静岡県ぐらいで隣の愛知、神奈川県はやっていないなど、その部分での肥大化がある。行政事業という部分で言うといろいろな市民の趣向がばらばらになり、市民でも要求されるものが相対立しているため、対立の間をとるといった部分が難しくなっている。</p>   |
| 会長  | <p>提案、進め方について、いくつか取組の概要やポイントが出ているが、ご意見をいただきたい。</p>   |
| 副会長 | <p>課題のところで上げられている大胆な改革ポイントで解決がなされるか考えたが、行政事務の肥大化や煩雑化について、大胆な改革ポイントの1番～9番までの改革をして解決するのかというと、解決しないのではと感じる。フリーアドレス化したところで肥大化煩雑化は解決されない。何をすべきかと考えると、業務のスクラップ&amp;ビルドではないかと思う。以前、公開の会議で質問させていただき、過去の業務の見直しを庁内外において棚卸しも含めてやられたことがあるかどうか、それに対して対策、対応をされたかどうかというのをご質問させていただいた。組織的にそのような取組をしたことがないという答えであったため、非常に業務が煩雑な状態になっていると感じた。例えば、組織毎でいいので、今年は市民課</p> |

|            |  |
|------------|--|
|            | <p>、来年は税務課と業務を完全に棚卸ししてきちんとやるべきことや不要なことを整理整頓して事務業務見直しをしたところで、次に進むということをやすべきである。ペーパーレス化はその時にすればいい。棚卸ししない状態でペーパーレス化しても解決にならない。会議を短縮しても本質的な解決にはならないと思う。業務を見直し、再構築してみる必要があると思う。</p>   |
| <p>会長</p>  | <p>すごく大事なことである。よく業務の棚卸しということで、事業そのものを削減していくという形で外部の力を借りてやるが、業務の棚卸しはしていない。日常的な事務の仕方でも無駄なところもあるかもしれないので、そこをもう一度再点検する必要があるのではないかと思う。それがあり、初めて取組とつながっていくのではという気がする。</p>  |
| <p>事務局</p> | <p>委員から、まずはスクラップをして、それで新しいものをしていかないとフレッシュな形で対応できないと意見をいただいた。様々な形でやっているが、1つは総合計画を毎年、進捗管理している。政策評価として、事業レベルで評価し、その評価に従い、予算に反映させることが直接、連携せず、どうしても去年と同じようなものが予算として残ってくるという傾向がある。さらに徹底したいという思いから新しい総合計画を28年度から作ろうとしている。ここ5年間の計画を作成するが、予算と事業を比べて、財政計画を作ると、どうしても事業の方が大きくなり、財源が足りないということもあるので、そこはスクラップということで28年度の予算については、それぞれの部で計上の経費ありますがそこは5%、7%と始めに枠を決め、枠の中でスクラップ&amp;ビルドを自主的にしていくやり方にしようかという検討もしている。</p> |
| <p>副会長</p> | <p>予算的に大きい枠組みということで言えばそうかもしれない。私が伝えたかったことは、さらに細かいことで、例えば、Aという書類が必要なのかどうか。今、A、B、C3種類の書類があり、それぞれ記入して、決裁をもらい、上司にまわさないといけない。もらった人はまた3枚の書類を見なければいけない。そういうことではなく、その3種類はAという1つにまとまるかもしれない。そうすれば印刷、回す、見る手間も省ける。日常の細かなこと作業も含</p>  |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>めての棚卸、見直しが必要であるということをお伝えした。</p>  |
| 会長  | <p>日常の業務の中に無駄があるか、ないかの点検が必要である。</p>   |
| 事務局 | <p>県だが、3年かけて事務事業の棚卸を実際やっている。その状況を伺っているが、そのための労力が通常の事務量とほぼ同じ事務量がかかるといふ状況のなかでやっているところがある。市の場合は、政策評価に合わせた形で事務事業評価表を作って、行政資料諸々作っていたものを事務事業評価表1本で予算、業務評価をやっている。意外と弱い部分、日常の業務の中のそれぞれの所管、横断の中でのがすり合わせがなかなかできていないという部分がある。総務部門と連携して、取り組むべきだと思う。</p> |
| 委員  | <p>意思決定のプロセスや権限の移譲をしっかりと見直さないといけな。プロセスの見直しはされているのか。その辺りについて、踏み込まないと、何でも無難に稟議や会議にかけていく慣習が出てくる。そこは踏み込んで改めないといけな。</p>  |
| 事務局 | <p>行政では、事務専決規程というのがあり、金額、内容や事業に応じて、決裁の範囲が決まってくるため、そこら辺をフレキシブルにかえていけるような部分が必要だと思う。</p>   |
| 委員  | <p>製造業では改善案というのを職ごとで提出させ、それをチェックして良いものは採用する。マツダでは、現場から上がった声により改善し、成果があがったことを聞いている。事務の改善も各部署から提案を比較して、早く採用できるものは、採用していったらいいと思う。</p>  |
| 会長  | <p>取組2、3、5について意見が言いたりないことについては、後日、事務局へ意見をお寄せいただきたい。</p>   |
| 会長  | <p><b>(2) 「人材育成、組織力向上」について</b></p> <p>人材育成、組織力向上について説明していただいたうえでご意見をいただきたい。</p>   |

|     |   |
|-----|---|
| 会長  | 左側のグラフ3つの区切りは何であるか。   |
| 事務局 | 青が「現在担当されている業務にやりがいを感じますか」の構成比で、黄色が「袋井市の職員であることに誇りや使命感を感じますか」の構成比、赤が全体として「現在の職場仕事に満足していますか」の回答の構成比となる。  |
| 委員  | 職員の採用をしてカリキュラムで勉強すると思うが一般の市民と触れ合う時間を日常的に意図的に作ってやられているか。例えば、商工関係の部署に、そこに配属された職員が店舗を回ったりしているのか。   |
| 事務局 | 今、現在はやっていない。どちらかというとならOJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）、職場内で直接市民の方と窓口で触れ合うという部分でしかやっていない。  |
| 委員  | ビジネス上で報告を部下から受ける。聞くと見るとでは大違いである。現場を見るとチェックする必要があると感じる。仕事で時間が取れないと報告に頼ってしまうが、現場を見て確認をしている。そこで言葉を交わし、実施していくことが一番いいのかなと自分の商売では感じている。昔は市の職員がお店に自転車できて、対話していたというイメージがある。それが忙しくなり、そういう機会が少なくなってしまったのではと思う。やはり、経験をさせる年代は意図的につくってあげたほうがいい気がする。市民の皆さんとふれ合う時間を無駄と思わずに経験させる機会を作っていただきたい。   |
| 会長  | 次回、8月4日ですが、そこでは、人材育成、組織力向上ということで議論していただく。去年、一般公開でオープンにしたわけですが、その時の素材がこれになる。本日、概要をご紹介していただいたわけですが、報告書も分厚い物になっているが、目を通していただければと思う。多忙化、業務の複雑化、量の多量化の改革ということで、地方分権改革で、静岡県は、基礎自治体の移譲事務を多く市町に委譲していると、県は勝ち誇っている。それで、交付金がおおりてくれればいいんですが、十分でないということで多忙化が非常に進んでしまっている。決して健全な形ではないと思う。そういう |

方向に行かざるをえないと思うので、どの方向に職員で目指していけるかというのが課題だと思う。客観的なデータ、情報があるため、今回は、それをもとに議論できればと思っている。今日は、実施計画の新たな取り組み、大胆な改革について3つの項目について皆様から貴重なご意見伺ったため、事務局でまとめていただき、今後の実施計画をつくるにあたっての参考にしていただければと思う。

以 上